

見つけた夢のために必要なことは

福島県・福島県立福島高等学校 1年 伊藤 可奈子

「大きくなったら何になりたい？」たくさんのことに興味、あこがれを持っていた幼い頃。「幼稚園の先生！^{ほか}他にお花屋さん、お菓子屋さん……。」私はたくさんの夢を持っていた。そんな中、この数えきれないほど存在する職業の中から、ある出来事、ある人との出会いをきっかけに目標とする職業ができた。それは「スポーツトレーナー」である。

幼い頃から続けている水泳。長年、県内ではトップを争ってきた私にとって一生忘れられない出来事があった。肩の故障である。

故障がきっかけで満足な練習ができず、ライバルに追い越され、泳ぐ楽しさを忘れてしまった。水にさえも嫌気がさした。大好きだったはずの水泳をやめようと考えた。そんな時、私にもう一度水泳と向き合うきっかけを作ってくれた人と出会った。それは整体の先生である。先生は体はもちろん、それ以上にボロボロになっていた心をも治してくれた。おかげで欠場気味だった大会にも復帰することができ、全国大会出場も果たした。そして何より、「水泳が大好きだ。楽しい」。失いかけた気持ちを取り戻すことができた。自分の故障をきっかけに、私の中で先生があこがれの人となった。

将来、スポーツトレーナーになって自分のような選手をサポートしてあげたい。では、そのために今何を考えれば良いか。何をしたら良いのだろうか。

まず、いくつかのプランを経済面と共に考えてみる。現在私が考えている進路は高校卒業後、スポーツ関係の4年制大学へ進学し、人間の身体についてくわしく学びたい。その後、専門学校で整体など技術的な面を学び、いずれ自らの店を運営しながら、全国、国際大会へ同伴できるトレーナーを目標として考えている。では、ためしにどのくらいの金額が必要となってくるか、おおよそ考えてみようと思う。

まず4年制大学への進学。(ある私立大学のスポーツ科より) 入学金32万円、授業料75万円、その他実験費などを含み、年間250万円。卒業までには1,000万円を超えるとされている。専門学校(あるスポーツ福祉科より)は1年間160万円。3年間としても480万円を超える。ここまででも1,500万円。また進学する大学によって、この費用は大きく変化していく。その後自営業として店を出すまでには、土地、建設、内装だけで2,000万円は考えられる。その上、治療などに必要とされる一つ数百万円以上の機械を入れるとすると、もう今の私では考えつかないほどの金額になるだろうことが想像できるわけである。

このような進路を実現するには、莫大な金額が必要となることは分かったわけであるが、そのお金はどうやって稼げば良いだろうか。また、それでも足りるのだろうか。現在私の通う学校ではアルバイトは基本的に禁止されている。そのため、今から将来のために多額の貯金をするのは困難である。では大学、専門学校時に時給 800 円のアルバイトを 1 日 4 時間、週 3 日入れたと仮定する。週に 9,600 円、1 か月で約 4 万円、1 年間で 48 万円、7 年間で約 340 万円の収入を得ることができるのだが、この額は 7 年間の授業料の 4 分の 1 ほどでしかない。また営業で一人あたり 2,000 円の治療を 1 日 50 人として 1 年に約 850 万円。すべての金額を返すとすると数年かかることは確かである。そのため、学費などは両親に大きな負担をかけてしまうだろう。「お前が大学出るくらいはどうかしてあげられるから、頑張りなさい。好きにしていから。」よく両親が言う言葉である。今までは、大学に行くことが普通で、学費も払ってもらおうということ普通だと感じていた自分がいた。今回、自分の夢を細かく見ていくことで、両親にはとても苦勞をかけているし、心配をさせることにもなることが分かった。先ほどの人生設計が叶う、叶わないは別にしても、いつか両親を心の底から笑顔にすることができるようにしたいと思った。

経済的にはとても困難であることが理解できたトレーナーという職業であるが、今の自分が第一にしなければならないことは何であるか。私は三つ考える。まずは一生懸命、学習に励むこと。それがなくては何の道も開けてこない。夢の実現の一步目となる大学進学のために積極的に、意欲的に取り組んでいかなくてはいけない。二つ目に、この夢を見つけるきっかけともなった水泳を楽しく、熱心に続けていく。そして常に目標に向かい努力していくこと。先生との出会いで再生した気持ちを大事にしていなくてはいけない。最後に多くの人と接すること。体だけでなく、心も整えることのできるトレーナーになるには、人との関わりを面倒くさがってはいけない。相手を心から心配できるような人になりたい。それが将来に役立ってくるはずだろうから。

肩の故障は本当に辛く、苦しいものだったということは一生忘れられない。しかし、この大きな出来事がきっかけとなって見つけた夢を大切にしたい。そしていつか、ケガで傷付いた選手たちの復帰の手助けのきっかけになりたいと思う。

